【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成21年4月9日(2009.4.9)

【公開番号】特開2007-231447(P2007-231447A)
【公開日】平成19年9月13日(2007.9.13)
【年通号数】公開・登録公報2007-035
【出願番号】特願2006-54136(P2006-54136)
【国際特許分類】
Ｄ０４Ｂ　15/36　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｄ０４Ｂ　15/36

【手続補正書】
【提出日】平成21年2月20日(2009.2.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
固定部分１９の上部中央には、編目受け用トランスファカム１６が出没自在に設けられる。編目受け用トランスファカム１６は左右対称形であり、その両側端には、中央に近い部分が深くなる傾斜面２５ａ，２５ｂを有する。編目受け用トランスファカム１６の中央には、三角形状のセンターカム２７が斜面２７ａ，２７ｂで形成されている。編目受け用トランスファカム１６の両端の傾斜面２５ａ，２５ｂの上縁は、凸形のバット案内面２９ａ，２９ｂとなり、その間は編目受け用トランスファカム１６で最も低い凹面３０となっている。ニードルレイジングカム１２の固定部分１９で編目受け用トランスファカム１６の傾斜面２５ａ，２５ｂに続く部分には、凹面３１，３２が設けられている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
片側針床で平編地を編成する際には、下部バット５４をバット案内溝２３で下降を開始させてステッチカム１３，１４のカム面に移行させるようにすることが好ましい。バット案内溝２３の水平部分２４からステッチカム１３，１４のカム面に下部バット５４を円滑に案内するためには、たとえばニードルレイジングカム１２の可動部分２０の両端に、水平部分２４の終端をステッチカム１３，１４の傾斜方向に案内するガイド部２０ａを形成することが考えられる。しかしながら、ガイド部２０ａを形成しても、強度確保のためにある程度の厚みを必要とするので、下部バット５４が水平部分２４からステッチカム１３，１４のカム面に移行する部分には段差が生じ、下部バット５４が円滑に移行するように形成することは困難である。段差が生じると、段差の部分で下部バット５４が跳ねてステッチカム１３，１４の斜面に当たり、編目の形成が不安定になるなどのおそれがある。